

令和5年度病害虫発生予察予報第8号（令和5年11月）

令和5年11月2日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、少(中西、西) <u>多(西)</u> 、やや少(中央)、少(中西) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央) <u>多(中央)</u> 、平年並(中西)、やや少(西) <u>多(中央、西)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> <u>多(中央)</u> 、平年並(中西)、やや少(西)
促成ナス	青枯病 うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、やや少(西) 平年並(東)、やや少(中央、西) <u>多(中央)</u> 、やや少(西)、少(東) <u>多(東、西)</u> 、平年並(中央) やや少(東)、少(中央、西) <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ チャノキイロアザミウマ タバココナジラミ オオタバコガ	平年並(東、中央)、やや少(中西) <u>多(中央)</u> 、少(東、中西) <u>多(東)</u> 、少(中央、中西) 平年並(中央)、やや少(東)、少(中西) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、少(中西) やや少(東、中央)、少(中西) <u>多(中央)</u> 、少(東、中西)
促成トマト	青枯病 葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 ハスモンヨトウ タバココナジラミ オオタバコガ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> やや少(中央) <u>多(中央)</u>

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台10月26日発表)

10月28日から11月27日までの天候見通し

＜予想される向こう1か月の天候＞

寒気の影響が弱く、暖かい空気が流れ込む時期があるため、向こう1か月の気温は高いでしょう。高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率60%、降水量は平年並、少ない確率とも40%、日照時間は平年並、多い確率とも40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率50%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は平年並、高い確率とも40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 か月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	40		40	20
		日照時間	20	40	40	

＜気温経過の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	低い		平年並		高い	
1 週目	四国地方	20	30		50		
2 週目		10	20	70			
3 ～ 4 週目		20		40		40	

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：10月28日(土)～11月27日(日)

1週目：10月28日(土)～11月3日(金)

2週目：11月4日(土)～11月10日(金)

3～4週目：11月11日(土)～11月24日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量：多(中央部)、少(中西部、西部)

根 拠

(1) 10月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりもやや多く、発病程度は平年よりも高かった。

(2) 11月は、降水量が平年並～少ないと予想されているが、例年発生が増加する時期であり、気温は平年と比べ高いと予想されていることから発生が増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(西部)、やや少(中央部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりも多く、中央部で少なかった。発病程度はいずれの地域も平年より低かった。
- (2) 11月は例年発生が増加する時期であることや、気温が平年よりも高いと予想されていることから、発生面積は増加し、未発生地域においても発生するようになると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤の防除効果は、上位葉等への進展状況で判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発病程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は平年並であった。
- (2) 例年、11月には既感染株の発症により発生が増加するうえに、気温は平年よりも高いと予想されていることから、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの野外からハウス内への飛び込みが続き、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(中央部)、平年並(中西部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部で平年並、西部でやや少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、中西部で平年並、西部で低かった。
- (2) 例年、気温の低下とともに野外密度も低下する時期であるが、気温が平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが続き、現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産みつけられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発生程度は中央部で平年よりも高く、西部で平年並、中西部でやや低かった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、発生は増加し、野外からハウス内への飛び込みも継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗

性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)、平年並(中西部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりもやや多く、中西部でやや少なく、西部で少なかった。発生程度はいずれの地域とも平年並以下であった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、発生は増加し、野外からハウス内への飛び込みも継続すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) 青枯病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、東部で平年並であった。発病程度は両地域とも平年並以下であった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されており、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 発病前の感染株や発病株に使用したハサミをそのまま使用すると健全株にも簡単に伝染して発病するので、必ずハサミを交換するか消毒する。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(東部)、やや少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県東部で発生が見られ、発生面積は平年よりも少なく、発病程度は平年よりも低かった。
- (2) 11月は例年発生が増加する時期であることや、気温が平年よりも高いと予想されていることから、発生面積は増加し、未発生地域においても発生するようになると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、西部でやや少なかった。発病程度はいずれも平年より低かった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高く、晴れの日が多いと予想されていることから、換気不足にならない限り現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(東部、西部)、平年並(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部と西部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。また、発生程度は東部、西部で平年よりも高く、中央部ではやや低かった。
- (2) 例年、気温の低下とともに野外密度も低下する時期であるが、気温が平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが続き、現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少(東部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は東部で平年並、中央部で平年よりもやや少なかった。発生程度はいずれも平年並以下であった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みも継続して発生が増加しやすい条件ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部、西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、東部で平年並であった。発生程度は西部で平年よりも高く、中央部でやや高く、東部で平年並であった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みも継続して発生が増加しやすい条件ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(東部、中央部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年より少なく、発病程度は低かった。

- (2) 11月は例年発生が増加する時期であることや、気温が平年よりも高いと予想されていることから、発生面積は増加傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2)黒枯病

予 想 発生量：多(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 10月の巡回調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発病程度は高かった。
(2) 11月の気温は平年よりも高く、晴れの日が多いと予想されていることから、換気不足にならない限り現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(東部)、少(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりも多く、中央部で少なかった。発生程度は東部で平年よりも高く、中央部で低かった。
(2) 例年、気温の低下とともに野外密度も低下する時期であるが、気温が平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが続き、現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

4)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並(中央部)、やや少(東部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりもやや多く、東部で平年並、中西部で少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、東部でやや低く、中西部で低かった。
(2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みも継続して発生が増加しやすい条件ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5)チャノキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中央部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。発生程度は東部で平年よりも高く、中央部で平年並であった。

(2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時から選択性殺虫剤による防除を徹底する。
- (2) 果樹類や樹木類に広く寄生することから、施設内にこれらの植物を持ち込まないようにする。

6)タバコナジラミ

予 想 発生量：やや少(東部、中央部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で見られ、発生面積は県東部と中央部で平年並、中西部では平年よりも少なかった。発生程度は東部で平年よりもやや高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みも継続して発生が増加しやすい条件ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

7)オオタバコガ

予 想 発生量：多(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年並であった。
- (2) 例年、気温の低下とともに野外密度も低下する時期であるが、フェロモントラップによる調査では平年よりも多い状態が続いている。また、気温が平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが続き、現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 果実に食入した幼虫や老齢幼虫に対しては薬剤の防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を実施する。被害果実は見つけ次第処分する。

4 促成トマトの病害虫

1)青枯病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年並であった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されており、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 発病前の感染株や発病株に使用したハサミをそのまま使用すると健全株にも簡単に伝染して発病するので、必ずハサミを交換するか消毒する。

2)葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年よりも低かった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高く、晴れの日が多いと予想されていることから、換気不足にならない限り現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3)すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年よりも高かった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高く、晴れの日が多いと予想されていることから、換気不足にならない限り現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4)黄化葉巻病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積、発病程度とも平年並であった。
- (2) 例年、11月に発生の増加が見られるうえに、気温は平年よりも高いと予想されていることから、本病の媒介虫であるタバココナジラミの野外からハウス内への飛び込みが続き、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5)ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度も平年より高かった。
- (2) 例年、気温の低下とともに野外密度も低下する時期であるが、気温が平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが続き、現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

6)タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、本虫の寄生は見られなかった。
- (2) 11月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みは継続し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。ま

た、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

7) オオタバコガ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は高かった。
- (2) 例年、気温の低下とともに野外密度も低下する時期であるが、フェロモントラップによる調査では平年よりも多い状態が続いている。また、気温が平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが続き、現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 果実に食入した幼虫や老齢幼虫に対しては薬剤の防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を実施する。被害果実は見つけ次第処分する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)